

参考文献の表記方法

文献の引用方法には、さまざまなパターンがありますが、マナーを遵守することが重要です。

引用文献が多数にわたる場合、文中や注に、著者名、発行年、引用ページ(特定できる場合)を記載し、詳細な情報は、巻末の参考文献一覧で提供します。

以下では、まず文中や注での文献の引用方法を示します。次に、欧文献、和文献、訳書(訳論文)ごとに、巻末の参考文献一覧での表記例を記載します。最後に、表記例で用いた参考文献を利用して、参考文献一覧を作成しています。

1. 文中や注での引用の仕方

1) 著書、論文の全体的な見解を引用する場合

例: Eccles(1985)、谷(1989)。ただし、()内で引用の場合、(Galbraith, 1972)

著者名と発行年のみ示します

ミニ・プロフィットセンターは、事業部よりさらに下位の現場に利益責任を設定し、その組織単位に権限を委譲する利益管理システムである。Cooper(1995)では、ヒガシマル、京都ビール(仮称)、オリンパス光学工業、大陽工業、京セラの5つのケースを取り上げ、組織にエンパワメントをもたらす日本の管理会計と評価している。これ以外にも、ソフトバンク(霧生廣, 1997)、前川製作所(前川総合研究所 + 場と組織のフォーラム, 1996)、浜松ホトニクス、NEC やソニーの生産小会社(日経ビジネス, 1995a)のケースが知られている。

2) 引用する場所が特定できる場合

例: (Atkinson, 1997, p. 552)、(長谷川, 2000, pp. 213-215)

著者名、発行年、引用ページ(あるいは図表番号、章など)を示します。

Simons(1990)は、後述するように、マネジメント・コントロールが組織学習を強化し、相互作用的に戦略に影響することを観察した上で、次のように述べている。「戦略策定と戦略実施の二分化は、マネジメント・コントロールの本質の理解不足をもたらす。戦略策定と実施の二分は、策定が戦略計画、実施がマネジメント・コントロールという点で人為的である」(Simons, 1990, p. 128)としているのである。

< 注意事項 >

- ・ 著書名に関して表記するのは、和洋問わず名字のみです。
- ・ カンマ(,)やピリオド(.)の後にはスペースを一つ入れてください。
- ・ 引用する部分が複数ページにわたる場合、(pp. 213-215)とします。
- ・ 共著で3人以上の場合、(Banker et al., 2001)、(石井他, 1985)というように、第二著者以降を略します。二人の場合、(Kaplan and Norton, 2001)、(谷・岩淵, 2000)となります。

2. 参考文献一覧での表記例

2 - 1 欧文献

欧文献(書物)

Eccles, R. G. (1985) *The Transfer Pricing Problem; A Theory for Practice*, Lexington, MA: D. C. Heath & Co..

著者名, (発行年) 書名, 発行地:書店.

欧文献(論文集)

Galbraith, J. R. (1972) *Organization Design; An Information Processing View*, in Lorsch, J. W., and P. R. Lawrence, eds., *Organization Planning; Cases and Concepts*, Homewood, Ill.: Richard D. Irwin.

著者名, (発行年) 論文名, in 編集者, ed(s)., 論文集名, 発行地:書店.

欧文献(論文)

Atkinson, A. A. (1997) *Strategic Performance Measurement and Incentive Compensation*, *European Management Journal*, Vol. 16, No. 5, pp. 552-561.

Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (2001) *Transforming the Balanced Scorecard from Performance Measurement to Strategic Management: Part 1*, *Accounting Horizon*, Vol.15, No.1, pp. 87-104.

Banker, R. D., G. Potter, and D. Srinivasan. (2000) *An Empirical Investigation of an Incentive Plan that Includes Nonfinancial Performance Measures*, *The Accounting Review*, Vol.75, No.1, pp. 65-92.

著者名. (発行年) 論文名, 雑誌名, 巻, 号(あるいは月日), 雑誌に掲載されているページ.

<注意事項>

- . カンマ(,)やピリオド(.)の後にはスペースを一つ入れてください。
- . 名字(ファミリー・ネーム)が先頭にきます。ただし、共著の場合、第一著者のみ。
- . ミドル・ネームやファースト・ネームはイニシャルに略します。
- . 書名と雑誌名はイタリック体にします。

2 - 2 和文献

和文献(書物)

石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎 (1985) 『経営戦略論』 有斐閣。

著者名 (発行年) 『書名』 出版社。

和文献(論文集)

長谷川恵一 (2000) 「管理会計情報変革のフレームワークとしてのバランスト・スコアカード」 (谷武幸・岩淵吉秀編著 『競争優位の管理会計』 中央経済社。)

著者名 発行年. 「論文名」 (編著者名 『書名』 出版社。)

和文献(論文)

谷武幸 (1989) 「戦略・組織構造・管理会計システム」『国民経済雑誌』第 159 巻第 5 号, 31-43 頁。

著者名 (発行年) 「論文名」 『雑誌名』 巻号, 雑誌に掲載されている頁。

< 注意事項 >

. 論文名にはかぎカッコ(「」)、書名・雑誌名には二重かぎカッコ(『』)をつけます。

. カンマ(,)の後や各項目のあいだにスペースを一つ入れてください。

2 - 3 訳本(論文)

基本的には、以下のどちらかのパターンに従ってください。ただし、原書を少しでも参照した場合にはパターン1、全く参照しなかった場合にパターン2というように何らかの基準を設けて、両パターンを同時に用いられても構いません。

<パターン1>

邦訳論文例

Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (1996a) Using the Balanced Scorecard as a Strategic Management System, *Harvard Business Review*, January-February, pp. 75-85. (鈴木一功訳 「バランス・スコアカードによる戦略的マネジメントの構築」『DIAMONDハーバード・ビジネス』第 22 巻第 2 号, 92-105 頁, 1997 年 2-3 月。)

著者名. 発行年. 論文名, 雑誌名, 巻号(あるいは月日), 雑誌に掲載されているページ.
(訳者名 「論文名」 『雑誌名』 巻号, 雑誌に掲載されている頁, 発行年。)

訳書例(論文と同様に処理してください)

Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (1996b) *The Balanced Scorecard: Translating Strategy into Action*, Boston, MA: Harvard Business School Press. (吉川武男訳 『バランス・スコアカード - 新しい経営指標による企業変革』生産性出版, 1997 年。)

パターン1において邦訳を参照した場合、脚注や文中には、例えば、(Kaplan & Norton, 1996a, 邦訳, p.111)や(Kaplan & Norton, 1996b, 訳書, pp.111-112)と記します。

<パターン2>

訳書例

R. S. キャプラン・D. P. ノートン (1997) 『バランス・スコアカード 新しい経営指標による企業変革』吉川武男訳, 生産性出版。

著者名 (訳書の出版年) 『訳書名』 訳者名, 出版社。

脚注や文中には、(キャプラン=ノートン, 1997, p.111)と記します。

3. 参考文献一覧の表記方法

巻末の参考文献一覧は、著者名(共著の場合一番目の著者)の名字を基準に並べます。

例では、参考文献を、英文(2 - 3のパターン1含む)、訳書(2 - 3のパターン2)、和文に分けて記載しています。そして、英文では著者の名字を abc 順に、訳書・和文ではあいうえお順に並べています。並べた際に、同じ著者で同じ発行年の文献がある場合、発行された順に(1996a)、(1996b)と区別を与えます。なお、2 - 3のパターン1を採用した場合に、訳者が同じ年に論文・本を発表していても a や b の区別を与えません。注や文中に提示するのは訳者ではなく原作者だからです。

以下では、本文で例として挙げた文献に一部追加して参考文献一覧を作成しています。

参考文献

- Atkinson, A. A. (1997) Strategic Performance Measurement and Incentive Compensation, *European Management Journal*, Vol. 16, No. 5, pp. 552-561.
- Banker, R. D., G. Potter, and D. Srinivasan. (2000) An Empirical Investigation of an Incentive Plan that Includes Nonfinancial Performance Measures, *The Accounting Review*, Vol.75, No.1, pp. 65-92.
- Eccles, R. G. (1985) *The Transfer Pricing Problem; A Theory for Practice*, Lexington: D. C. Heath & Co..
- Galbraith, J. R. (1972) Organization Design; An Information Processing View, in Lorsch, J. W., and P. R. Lawrence, eds., *Organization Planning; Cases and Concepts*, Homewood, Ill.: Richard D. Irwin.
- Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (1996a) Using the Balanced Scorecard as a Strategic Management System, *Harvard Business Review*, January-February, pp. 75-85. (鈴木一功訳「バランス・スコアカードによる戦略的マネジメントの構築」『DIAMONDハーバード・ビジネス』第22巻第2号, 92-105頁, 1997年2-3月。)
- Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (1996b) *The Balanced Scorecard: Translating Strategy into Action*, Boston, MA: Harvard Business School Press. (吉川武男訳『バランス・スコアカード - 新しい経営指標による企業変革』生産性出版, 1997年。)
- Kaplan, R. S., and D. P. Norton. (2001) Transforming the Balanced Scorecard from Performance Measurement to Strategic Management: Part , *Accounting Horizons*, Vol.15, No.1, pp. 87-104.
- T. クーン (1971) 『科学革命の構造』中山茂訳, みすず書房。
- P. F. ドラッカー (1996) 『見えざる革命 年金が経済を支配する』上田惇生訳, ダイヤモンド社。
- 石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎 (1985) 『経営戦略論』有斐閣。
- 長谷川恵一 (2000) 「管理会計情報変革のフレームワークとしてのバランスト・スコアカード」(谷武幸・岩淵吉秀編著『競争優位の管理会計』中央経済社。)
- 谷武幸 (1989) 「戦略・組織構造・管理会計システム」『国民経済雑誌』第159巻第5号, 31-43頁。